



題字揮毫・瀬島龍三氏

第 10 号

財団法人 大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会

〒105-0014 港区芝2-5-19
TAビル4階

電話 03 (5730) 0421
FAX 03 (5730) 0422

<http://homepage2.nifty.com/ireikyuu>

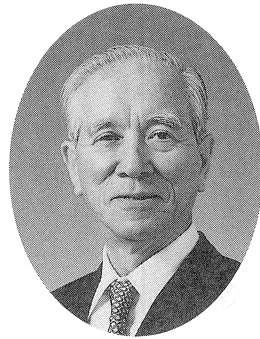
振替口座 00140-6-334930

編集人 飯田正能
発行人 袖木文夫
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

目次

会長就任のご挨拶	1
「昭和の日」と「みどりの日」に想う	2
平成20年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑拜礼式	4
特攻殉国者慰霊祭	5
シベリア鎮魂慰霊とイルクーツク墓参	6
報告(その二)	6
協議会参加団体の紹介⑨全ビルマ会	11
遺烈・JYMA	13
事務局からの報告等	13

会長就任のご挨拶



山本卓眞新会長

若返りを図ることなどから、今回の人
事になったものと考えています。

本協議会は3年前に創立され、今年
4年目に入りますが、設立趣意書の後
半には、次のように書かれています。

「今日、先の大戦が終結して六十一年の
歳月が経過し、この戦いを経験した者
の多くが他界し或いは高齢化するに至っ
ております。私どもは、この歳月の経

過の中に、国民の戦没者に対する慰霊
の心が風化しつつあることを憂慮して
いるところであります。ここにおいて、

私どもは全戦没者慰霊事業の永続性を
図る為、既存の戦没者慰霊諸団体と相
諮り大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議
会を設立し、戦没者慰霊諸団体相携え

て現代世情の流れに即した全戦没者慰
霊事業に努力することになりました。」
この3年間、各慰霊諸団体のご努力
にも拘わらず、会員の高齢化とともに
会員の減少も進み、解散を余儀なくさ

れた団体も始めています。本協議会
設立当初からの憂慮が現実となりつつ
あり、将来に向かつての方策を遅滞な
く進めるべきでありましよう。

瀬島さんが、以上のような憂慮を話
されたのは4年以上も前のことで、1
年余の熟慮の後、行動を開始された
記憶しております。また、進め方も慎
重で、周囲の意見をよく聞いておられ

ました。特に不況の中で基本金の出捐
者を探し、お願いすることは、瀬島さ
んならではのことでした。この出捐を
頂いた大久保隆顧問には改めて深く御
礼申し上げます。更に、名誉総裁とし
て三笠宮崇仁親王殿下を戴くことがで
きたのも瀬島さんのご尽力によりです。

この間、瀬島さんは晩年を慰霊顕彰
に尽くすと言われ、そのためにも長寿
を期しておられましたが、ついに95歳
でその波乱に満ちた人生を終えられま
した。私どもは深く哀悼の意を表し、

事務所移転のお知らせ

当協議会事務所は、去る4月7日
左記へ移転しました。

記

〒105-00014

東京都港区芝2-5-19

電話 03-5730-0421 TAビル 4階

FAX 03-5730-0422

ご冥福をお祈りすると共に、瀬島さん
の志を継いで本協議会設立の趣旨に沿
い努力を固めるべきだと思えます。幸
い、堀江、新庄両前副会長も顧問とし
て残られますので、折々にご指導を頂
きたいと思えます。

当面の検討課題について、

1 慰霊諸団体の統合

5月8日の評議員会で、本会の創
立以来の目的である、慰霊諸団体の
統合を急ぐべきではないか、との意
見が提起されました。前記のように、

正会員、賛助会員、役員並びに関係
者の皆様には日頃、当財団法人大東亜
戦争全戦没者慰霊団体協議会の活動、
維持に多大のご協力ご支援を頂き、厚
く御礼申し上げます。

さて、5月9日の理事会での選任に
より、私が会長の重責を担うことにな
りました。昨年9月、本協議会の創始
者であり、会長を務められた瀬島龍三
氏が亡くなられ、その後堀江正夫副会
長が会長代行を務めておられました。

解散を余儀なくされた団体も出始めた現在、誠にこともとまなご意見で、協議会に対する激励とも受け止めております。しかしながら、これまで整理統合が以下に行われるべきかの議論は不十分なままでした。現実には、

① 統合を希望する団体、名称を残すか、残すとすれば多数団体の名称を並列できるか。

② 慰霊祭の形式、人、場所は如何にあるべきか、協議会は多様な慰霊祭をカバーできるか。

③ 会員の扱い、会費の在り方、経

「昭和の日」と「みどりの日」に想う

今年第2回目となる「昭和の日」の4月29日には、(財)昭和聖徳記念財団の主催による「昭和天皇のご聖徳を伝えつぐ集い」が九段会館・大ホールに満員の参会者を集めて盛大に催された。第一部の式典に続く特別講演では作家の半藤一利氏が「昭和天皇と終戦のご聖断」と題する特別講演を行い、昭和天皇の言語に絶する苦衷の御決断と国民に対する深甚なる御慈愛心に感銘を受けた。第二部のアトラクション

費負担力との関係。

など、統合に伴う課題は単純とは言い難く、諸団体との協議の上で折り合いながらの意見集約が必要でしょう。諸団体の建設的なご意見、ご希望を伺いたく、お願い致します。

2 遺骨収集、海外慰霊碑

昨年度から厚生労働省の委託を受けて、遺骨収集派遣団体への補助金交付に対する協力を始めました。今後も継続される予定です。

また、寄付行為には、海外にある戦没者慰霊碑の良好な管理とその慰霊に協力する、と書かれています。

現在は参加団体の海外慰霊行事に供花を贈っている程度です。良好な管理を行うには、かなりの知恵と資力を必要とし、現在の協議会の力には限度があり、これまた重要な協議事項です。

3 新公益法人への移行

現在の財団法人は、新しい法律により新公益法人に移行することになります。協議会はその準備を進めていますが、定款、施行規則、評議員、役員、理事などにもかなりの変更が生じます。準備の進行につれ逐次報告しますが、予め心得おき頂きたい

と思います。

以上のような課題を極力円滑に処理し、かつ、「首相の靖國不参拝」に象徴されるように、慰霊顕彰の誠意自体が風化しつつあるのを挽回するには、関係各位の絶大なるご協力、ご指導が不可欠であります。今後とも建設的なご意見を頂きますようお願いをして、ご挨拶と致します。

平成二十年五月

財団法人大東亜戦争全戦没者

慰霊団体協議会

会長 山本 卓眞

は、児童合唱団「音羽ゆりかご会」による「思い出の唱歌・童謡」の数々に懐かしく心洗われ、童心に帰った思いであった。それと同時に、この美しい

国・日本に生を受けた幸せを思い、この国の将来に思いをいたし、古き良き伝統、文化を守り育てることの大切さを改めて心に銘じた次第である。

続いて5月4日の「みどりの日」、

「国民の祝日に関する法律」第二条には、「自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ」とある。これまた、昭和天皇がこよなく愛された自然や生物の営み、環境の保全に深い関わりのある日であり、御聖徳

を偲び、大御心を受け継いで、この美しい国・日本の自然を守り育てることを心に銘記すべきである。

日本の歴史、文化、伝統、自然を守り育て、将来にわたって平和と安全を確保するためには、何よりも教育の再生、充実強化が必要である。

激動の昭和を顧み、昭和天皇の御生涯を通して、その御聖徳の偉大さを偲ぶ時、筆者は、教育の持つ力の強さを改めて想うのである。このことは、

昭和天皇の御幼少の頃から御教育を顧みても首肯できることであろう。昭和天皇の御聖徳の依って来る根源には、天賦の御資質に加えて、御幼少

の頃よりの優れた御教育があったのではないかと拝察するのである。

昭和天皇は、学習院初等科を御卒業

(大正3年4月2日)後、新設の東宮御学問所^{おがくもんじょ}で学ばれた。東宮御学問所の新設は、晩年(明治40年1月30日)大

正元年9月13日自刃)に学習院長の職にあった乃木希典大将の発意によるもので、その総裁に東郷平八郎元帥を充てることまで決めてあったという。

東宮御学問所は、大正3年5月4日に開設され、皇太子裕仁親王殿下は、同日5名の御学友と共に始業式に臨まれた。以後、高輪の旧高松宮邸のあった所に設けられた東宮御所(高輪御殿)

に住まれ、同敷地内の東宮御学問所において、大正10年2月18日の修了式まで7年間学ばれた。

御学問所では、倫理を始めとして、歴史、数学、化学、地理、博物、フランス語、国文、漢文、美術史、法学、経済学、軍事など、全てに当代一流の碩学・知性を集めて教授陣を構成し、極めて幅広い分野の最高の教育が行われた。このような構想は我が国はもとより、ヨーロッパや中国の、いわゆる帝王学の中でも類例のない、画期的なものであったという。因みに、明治天皇の場合は、従来の古典教養を中心とする教育を受けられ、維新後も四書五経などを学ばれた後、御成年後は、儒教を元田永学に、西洋的知識を加藤弘之等に学ばれ、御所内における、いわゆる側近教育を受けられた。大正天皇の場合は、学習院初等科から中等科に進まれたが、御健康状態や地震による校舎の倒壊等のため中退されて、東宮御学問所を設立し、東京帝大等から和漢学の教授を招いて教育を受けられた。

また、昭和天皇の弟宮達は、ヨーロッパの王室の通例に従い、それぞれ軍の士官学校等に学ばれて、軍務に服された(淳宮(秩父宮雅仁)親王殿下には、東京陸軍幼年学校を経て陸軍士官学校に学ばれ、更に陸軍大学校へと、光宮

(高松宮宣仁)親王殿下には、海軍兵学校に学ばれ、更に海軍大学校へと、澄宮(三笠宮崇仁)親王殿下には、陸軍士官学校に学ばれ、更に陸軍大学校へと、それぞれ進まれた)。

東宮御学問所は、その総裁に日本海海戦の英雄東郷平八郎元帥を据えたほか、実務面を総覧する副総裁には、東宮大夫であり、東京帝大総長を二度にわたって務めた文部行政の巨頭、浜尾新が任じられた。御学問所における幅広い教科の中で、君主としての徳性を涵養するという、御学問所の目的からすれば、倫理は最も重要な科目であった。その人選は難航し、紆余曲折を経て、当時日本中学校校長を務めていた杉浦重剛に白羽の矢が立った。当時の帝大総長山川健次郎の推挙によると言われる。当時の日本中学は官学とは縁がないが、英語教育の水準が高いことで定評があり、一高への抜群の進学率を誇っていた。吉田茂、永井荷風、横山大観、長谷川如是閑など、多彩な人材が学んでいる。

研究にいそしみ、『ネイチャー』誌に発表した数編の論文により、ロンドン化学学会の終身会員に選ばれるなどした、条約改正に反対し続けた保守言論人としての面、東京英語学校(後に日本中学校と改称)を創設した知英派の教育者としての面等々であり、しかも恩情に厚く極めて強い感化力を持つた人物であった。

杉浦重剛という人物とその魅力については、いろいろに評価されており、分かりにくい面もあるが、イギリスに留学した科学者としての面(マンチェスターのオーエン・カレッジ、次いでロンドンのサウスケンジントンで化学

一、二を例示すれば、第一回目の講義の「三種の神器」について、鏡・玉・劍の三つの神器はなぜ尊いのか、それは鏡が知を、玉が仁を、劍が勇を「実物に托し垂示せられたるもの」だからである。中国においても、徳の最たるものは、知仁勇であり、また、西洋では、知と情と意志を兼ね備えた人格を最も完全なものとしている。故に、知と仁と勇とは、人類に普遍的な徳であり、この三徳に着目し、修養されることが大事である。知を磨くには、学問を好きになること、仁を育むには、「下民」を愛し労ること、勇を養うには、恥を知ること、と具体的な方法を挙げて講述した。しかも、初講義の最後に杉浦は「倫理などというものは、口で言うだけでは何の役にも立ちませぬ。日常の中で実践することで、はじめて実が備わるのです。重剛は、魯鈍であ

りますし、及ばないところも多いのですが、こうした心持ちで六十年間生き延びました。殿下も、実行を心がけていたのだと思います」と言ったという。また、講義は君主としての身の上にも及び、例えば、第一次世界大戦の後に亡命したドイツ皇帝ウイヘルム二世を取り上げて、杉浦は、側近の回想録などを引きながら、ウイヘルム二世が大変善良で親切であったこと、理想家で常に正義をなそうと努めており、君主としての資質に不足はなかった。しかし、幼い時から追従者に囲まれ、具体的な人情に通ぜず、臣下の弄する甘辭を見抜くことができなかった。そのため老臣ビスマルクを嫌い、遠ざけることになったと、その顛末を懇切に語った、という。

大正4年11月10日、大正天皇の即位の大礼が京都御所で行われたが、当初は、未成年の故に皇太子は不参加の方針であったのを、浜尾東宮大夫らの反対を押し切り、大山巖内大臣始め要路の人々を訪ねて皇太子の出席を説き、「斯かる森嚴崇高なる御式典に御参列ありてこそ、殿下に於かせられても一層深く御自身の御責任を覚らせ給ふべき事に御座候故に、古よりして皇太子殿下は、冠未冠の如何は問はず、御即位の御大礼に御参列被為在ことは、延

りますし、及ばないところも多いのですが、こうした心持ちで六十年間生き延びました。殿下も、実行を心がけていたのだと思います」と言ったという。また、講義は君主としての身の上にも及び、例えば、第一次世界大戦の後に亡命したドイツ皇帝ウイヘルム二世を取り上げて、杉浦は、側近の回想録などを引きながら、ウイヘルム二世が大変善良で親切であったこと、理想家で常に正義をなそうと努めており、君主としての資質に不足はなかった。しかし、幼い時から追従者に囲まれ、具体的な人情に通ぜず、臣下の弄する甘辭を見抜くことができなかった。そのため老臣ビスマルクを嫌い、遠ざけることになったと、その顛末を懇切に語った、という。

大正4年11月10日、大正天皇の即位の大礼が京都御所で行われたが、当初は、未成年の故に皇太子は不参加の方針であったのを、浜尾東宮大夫らの反対を押し切り、大山巖内大臣始め要路の人々を訪ねて皇太子の出席を説き、「斯かる森嚴崇高なる御式典に御参列ありてこそ、殿下に於かせられても一層深く御自身の御責任を覚らせ給ふべき事に御座候故に、古よりして皇太子殿下は、冠未冠の如何は問はず、御即位の御大礼に御参列被為在ことは、延

喜式に定められたるが如く、又実例も有之事に御座候「意見書」「回天録草案」として新聞各紙にも記事を書かせるなどし、遂に皇太子の出席を実現させた。また、その後、大正10年3

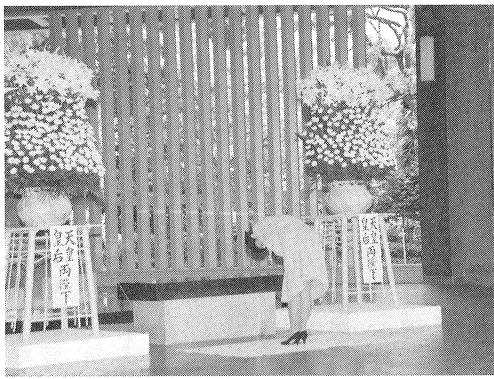
平成20年度

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式

千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

平成20年度厚生労働省主催の拝礼式が、5月26日(月)高円宮久子妃殿下の御臨席を仰ぎ、緑滴る千鳥ヶ淵墓苑において厳粛に執り行われた。

掃き清められた墓前には、天皇皇后



礼拝される高円宮妃殿下

月9月の皇太子裕仁親王殿下の御訪欧についても、杉浦は、保守、右翼陣営が反対する中、その実現を強く支持した、という。(以上、東宮御学問所に関する記事は、『文藝春秋』06年2

両陛下御下賜の五花籠が供えられ、約600名の参列者がお待ちするなか、

定刻12時30分、妃殿下が御臨場になられて拝礼式は開始された。皇宮警察音楽隊の演奏に合わせ、参列者全員が国歌「君が代」を斉唱し、次いで、舩添

要一厚生労働大臣が式辞奉読した後、同省社会・援護局長から手渡された御遺骨を奉持して、納骨の儀を執り行った。今回、納骨堂に納められた御遺骨は、旧ソ連チタ州、フィリピン、インドネシア、東部ニューギニア、ソロモン諸島、硫黄島、キリバス、サイパン島等において収集された629柱で、これにより千鳥ヶ淵戦没者墓苑には合計35万2926柱の御遺骨が納められたことになる。

納骨の儀終了の後、参列者一同が起立する中、高円宮妃殿下が墓前にお進みになって深々と御拝礼、戦没者の御冥福をお祈りになられた。参列者一同も妃殿下の御拝礼に合わせて拝礼を行い、その後、妃殿下は、一同がお見送りする中を、遺族に御会釈を賜りなが

月号「昭和天皇⑧帝王学」福田和也慶大教授著を参考とした。) 以上は、ほんの一例に過ぎないが、御幼少の頃から優れた御学問、御教養、御経験によって、国の重大事に際

拝礼式式辞

厚生労働大臣 舩添 要一

本日ここに、高円宮妃殿下の御臨席の下、戦没者御遺族及び来賓各位の御参列を得て、千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式を挙行するに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

先の大戦におきましては、多くの同胞が、祖国の安寧を願いながら、苛烈な戦闘に倒れ、また、戦後、遠い異国の地でお亡くなりになりました。

これらの海外戦没者の御遺骨を祖国にお迎えするため、政府におきましては、昭和27年度に南方地域へ戦没者遺骨収集団を派遣して以来、戦没者御遺族とともに全力を挙げて御遺骨を収集してまいりました。戦後六十年以上が経過した今もなお、多くの戦没者の方々が海外に眠っておられます。こうした方々に思いを致すとき、一日も早く御遺骨を祖国にお迎えできるよう、今後とも力を尽くす決意を新たにするとこ

しての優れた御判断と進むべき道をお示しになられたものと拝察する。

(飯田正能記)

ろであります。

ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑に、本年は、旧ソ連、硫黄島、フィリピン、インドネシア、東部ニューギニア、ビスマーク・ソロモン諸島等において収集いたしました六百二十六柱を新たに納めたいいたします。これにより千鳥ヶ淵戦没者墓苑に納められる御遺骨は三十五万二千九百二十六柱を数えることとなります。

この式典に当たり、改めて今日の我が国の平和と繁栄の礎となられました戦没者の方々に深く思いを致し、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、先の大戦から学びとった多くの教訓を次の世代に継承し、恒久の平和を確立すべく力を尽くして参りますこととお誓いいたします。

最後になりますが、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて眠られる戦没者の方々の安らかな眠りと、戦没者御遺族の皆様方の御平安を切に祈念いたしまして、式辞といたします。

ら御退場になられた。

次いで、福田内閣総理大臣、舛添厚生労働大臣、小池外務大臣政務官、関係国のインドネシア共和国、キリバス共和国、モンゴル国、パプアニューギニア、フィリピン共和国、ロシア連邦の各駐日大使、桜井環境副大臣、江渡防衛副大臣、衆参両議院各厚生労働委員長、各政党代表、古賀日本遺族会会長、遺族代表などの献花が行われ、最後に、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会多田副会長が献花を行って、13時15分、式典は滞りなく終了した。その後、一般参列者やこの日に合わせて来苑した遺族・慰霊団体等の参拝が相次いだ。

第42回特攻殉国者慰霊祭

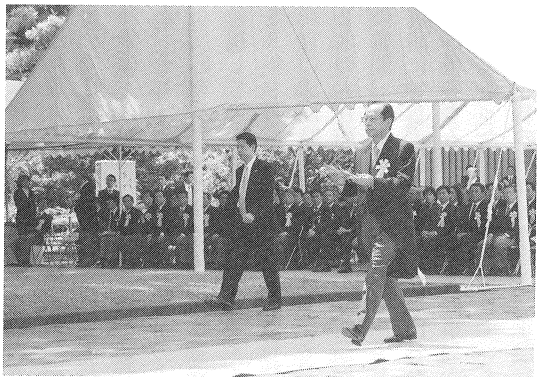
特攻殉国の碑保存会

当協議会の参加団体である長崎県川棚町新谷郷の「特攻殉国の碑保存会」では、去る5月11日(日)14時から、「特攻殉国の碑」前において、川棚町後援の下に、「第42回特攻殉国者慰霊祭」を厳粛、盛大に斎行された。

右の慰霊祭に当たり、当協議会から供花料並びにレタックスによる慰霊の言葉を差し上げましたところ、同保存



礼拝に向かわれる高円宮妃殿下



献花に向かわれる福田内閣総理大臣



舛添厚生労働大臣による納骨の儀

会益田善雄会長より、次のような、ご鄭重なるお礼状とご報告を頂戴いたしましたので、ご披露いたします。

「拝啓 新緑の好季節の折柄、ますますご健勝の段、慶賀至極に存じ上げます。平素より、当保存会に対し並々ならぬご協力・ご援助を賜り、有り難く厚くお礼申し上げます。

さて、この度の第42回特攻殉国者慰霊祭には、お心にお掛け下され、ご丁寧なお便りとお供え、あるいは電報・レタックスを頂戴し、誠に有り難く、ご懇情の程、厚く厚く御礼申し上げます。勿論、貴信は謹んで霊前に奉呈さ

せて頂きました。

お陰様で慰霊祭が荘厳且つ盛大に行出来ました次第で、御遺族・会員と共に心から感謝、御礼申し上げます。

今年是天候に恵まれ、地元川棚町と新谷郷をはじめ海上自衛隊・佐世保ガンルームシニア会等、組織を挙げてご加勢下され、献歌と海上自衛隊佐世保音楽隊の奉納演奏が加わり、ご来賓各位のご臨席も多く、皆々様のご温情が、慰霊祭会場にも漲りました。

在天の英霊も、さぞ喜んで下さったことと思います。また、今年もご遺族のご出席が多く、戦死者の甥や孫に当

たる若人も目立ちました次第で、ご遺族の戦死者に対する追慕の情深さをしみじみと思んだ次第でございました。皆様のご厚情がどんなにかご遺族を力強く励まし、英霊をお慰めることが出来たのではないかと思います。本当に有り難うございました。

終わりに、今後とも何とぞ一層のご指導・ご援助をお願い申し上げます。簡単で恐縮ですが、御礼まで申し上げます。

平成二十年五月

特攻殉国の碑保存会

会長 益田 善雄

敬具

シベリア鎮魂慰霊とイルクーツク
墓参報告(その二)

東京ヤゴダ会

会長(軍校7期) 藤井弥五郎

副会長(同) 茨木 治人

◆イルクーツク州慰霊墓参報告
(全国強制抑留協会19年度墓参
に茨木が参加)

①州政府を表敬訪問

州政府に対し、州内に建立されている慰霊碑写真集(ロシア語併記)を提出した。

平成16年、元抑留者であった藤井と茨木が日本政府調査団として初めて州政府を訪問した。

当日は、儀典課顧問のブラーソフ氏の案内で州知事官房長ヴェレデーエフ氏と面談したが、チタ州の慰霊碑の状況についての話の中で、藤井が毎年チタ州に滞在して埋葬地・慰霊碑調査をしており、州全体の慰霊碑は把握できていると説明した。茨木の抑留地はイルクーツク市から28kmのオルハ村で、森林伐採と鉄道建設に従事したと説明していたので、官房長から貴方の抑留地はイルクーツク州であるから、チタ州と同様、州内の慰霊碑を調査把握して報告してほしいとの要望があった。

この要望に応えるため、平成17年の調査は、14日間休みなしのハードスケジュールで実施し、ロシア側も休日を返上して協力してくれ、調査結果を州政府知事秘書室長ヴィニャルスキー氏に遺骨収集状況・慰霊碑所在地一覧図を渡して説明した。

今回提出の写真集は、建立場所名、慰霊碑全景写真、正面・側面寸法図、慰霊碑調査で面談した自治体責任者との記念写真等40頁の写真集で、木碑の写真も含めた。

州政府訪問が、茨木の全国抑留協会平成19年度イルクーツク州墓参団参加の主目的であるので、旅行社に、事前に訪問目的を説明したにも拘らず、現地旅行社の案内人は、日本語も解らず、州政府のことは解らないという。訪問して何とか目的を達したいと、旅行社の添乗通訳の岩岡氏に、提出写真集の予備の一部を渡して経緯を説明し、前回訪問時に一緒に記念撮影をした知事室長ヴィニャルスキー氏の写真を持って受付で面談理由を説明したところ、受付よりの電話で女性秘書が出て来たので、再度説明したところ、その秘書が連絡を取ってくれたが、ヴィニャルスキー氏は渡米中で不在であるから上司の方が面談することと、岩岡通訳と共に名刺を交換し、面談して経緯

を説明し、平成16年に初めて民間建立慰霊碑調査で州政府を表敬訪問した時に、ヴェレデーエフ官房長との約束によつて作成したことを伝え、写真集2部を渡して今後の管理をお願いしたところ、幸い快く承諾して受け取っていただいた。帰国後、突然の訪問を陳謝すると共に感謝の手紙を送り、今後とも日露の友好と慰霊碑を護っていたきたいことをお願いした。

②イルクーツク・マラトヴォ日本人墓地とオルハ村(現在は町)慰霊碑

マラトヴォ墓地は、別称1218病院墓地で、イルクーツク州の象徴的墓地・慰霊碑と言える病院墓地である。

ソ連時代(1956年)外国人訪問用として整備されると同時に、ソ連邦内務省は、誰がこの日本人墓地を訪れるか、そして、この墓地を見てどのような反応を示すかと、密かに、注意深く監視していたと記録されている。1958年9月、モスクワの大使館付陸軍武官の訪問時、更に1959年6月、2名の大使館員の訪問があり、訪問時の質問、ソ連側の案内人名、出された質問に対し、誰がどのような回答をしたか報告するよう、内務省刑事局から発令があったことも記録されている。

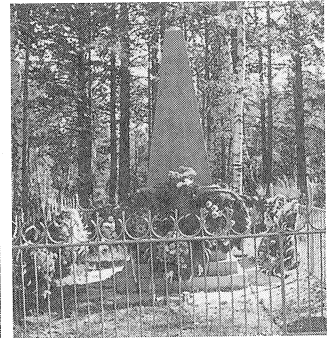
406名の埋葬者のうち、平成15年



鉄扉の取り外された墓地入り口



平成16年訪問時の墓地・慰霊碑



マラトヴォ日本人墓地慰霊碑
(銘板が取り外されている。)

に383名を収骨し、23名が未発見と
なっている(田口氏のイルクーツク州
遺骨収集記録より)この墓地は、平成
16年に慰霊碑調査のため公式訪問した
時は、墓地はもっと整備され、清掃さ
れて「日本人墓地」と明記された銘板
があったが、今回の慰霊訪問の際には
取り外されており、墓地入口の鉄製扉
も外されて無くなっていった。盗難で無
くなったのか、市が盗難を予防して外
したのかは不明である。この墓地は、
人口が増えて、周囲にロシア人の墓地
も増え、通路がなくなったり狭くなっ
たりして、ロシア人墓地の中に日本人
墓地がある状態で、鉄柵が取り付けら
れているから大丈夫とは思いますが、墓地
慰霊碑が見付けにくくなっている。追
悼式終了後、町役場を訪問して、コー
キシシ町長と面談し、この状況を話し
たところ、気を遣って、近いうちに整
備をし、良好に管理していくとの話が
あった。その後、役場の広場で募参団
全員と握手をしたり、一緒に写真を撮っ
たりして和やかな一時を過ごし、全員
の記念写真を撮影して別れた。

③スリユージャンカ市役所訪問・日本
人墓地追悼式・ロシア人戦没者慰霊
碑にて黙禱

帰国日の前日、8月28日朝9時ホテ

ルを出発、イルクーツク市からほぼ鉄
道に沿ってスリユージャンカ市へ向か
う。この鉄道は我々抑留者が敷設作業
を行った鉄道であり、厳寒期にも三交
替制で作業を進めたが、夜間の気温は
零下50度にも下がる中、73kmにも及ぶ
谷間を、ほとんど手作業で埋めて線路
を敷設した、寒さのため口も開けられ
ず、黙々と苦しい労働を続けたことを
思い出しながら山を越え、踏切を通り、
バイカル湖が眼下に見下ろせるクルト
ウク村で休憩をしたが、村人達が土地
の産物を売っていた。今まではなかつ
たことだが、観光客が増えたらしい。

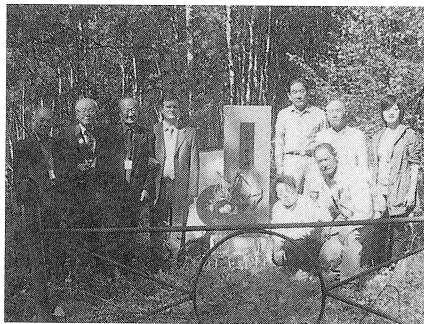
スリユージャンカ市役所訪問につい
て、前回の訪問時は選挙中であつたの
で、当時の市長アニキン氏が市長に再
選されたかどうか、旅行社の案内人に
市長の写真を見せて尋ねたところ、現
在は居ないということであり、募参団
の皆さんもハードスケジュールのため
疲労しており、明日の出国を控えて準
備もあるので一時は訪問中止も考えた
が、相談の結果、とにかく行ってみよ
うということになって、市役所の受付
で、当時の市長アニキン氏との記念撮
影の写真を見せたところ、案内人の言
に反して、市長は再選されており、現
在執務中とのことであつた。市役所は
市民の陳情団で溢れ、市長は大変多忙

の様子であつたが、それにも拘らず、
我々を喜んで迎えてくれた。私が、選
挙での当選のお祝を申し上げ、募参団
と共に募参に来た旨を伝えたところ、
市長自ら車の助手席に乗って慰霊碑の
場所まで案内し、急な上り坂では、手
を差し伸べるなど、募参団に気を配つ
てくれた上、慰霊碑前の追悼式にも参
列し、胸に手を当てて黙とうを捧げて
くれ、終了後は、募参の皆さんに挨拶
をして用意を表してくれた。

市長は終始私と腕を組み、募参団と
共に募参に来たことを喜び、抱き合つ
てお互いの背中を叩き合うなどして、
喜びを表してくれ、慰霊の気持ちがお
互いに通じ合ったことが嬉しかった。
前回の訪問時、二人でテレビ局の取材
を受けたが、私はこの地に抑留された
日本人として、当時この地に住んでい
た多くのロシア人の皆さんが好意を持
つて接してくれたことを感謝していると
述べ、残念ながら病に倒れて死亡した
日本人の慰霊碑の保全方をお願いした。
そのことが、当時この地で抑留された
日本人抑留者として放映され、市民の
反応が多かったのか、市長は、事前に
連絡してくればテレビ局を呼んで放
映したのに、と言っていたが、やはり、
そのような報道をすることにより、こ
の地の開発に貢献した日本人抑留者と

しての歴史の真実も分かり、慰霊碑に
対する市民の理解も高まるものと思わ
れ、お互いの心の繋がりが大切であり、
それによって友好の実が結ぶことを、
改めて実感した。

今回は、突然の訪問ながら僥倖とも
言える市長との出会いと立派な慰霊祭
ができたが、これは、英霊と神仏のお
導きとしか考えられず、誠に感動的な
訪問・募参であつた。また、その帰途
ロシア人戦没者慰霊碑にも立ち寄り、
碑前に整列し黙禱をして慰霊の誠を捧
げた。その後、市役所前にて市長との
お別れをした。



スリユージャンカ日本人墓地追悼式後の記念
写真。中央アニキン市長と腕を組む筆者(茨木)

④アンガルスク市役所訪問と市が建立
した慰霊碑前での追悼式

8月25、26の2日間でバム鉄道沿線
の募参を終え、23時18分の夜行列車に

乗り、27日朝7時52分チェレンホーヴォ到着下車。チェレンホーヴォ市役所と隣接するスヴィルスク市役所を訪問し、それぞれの市に建つ慰霊碑前にて追悼式を実施した後、15時に訪問主目的のアンガルスク市に到着した。

アンガルスク市は、イルクーツク州第3のブラーツク市に次ぐ都市で、人口26万、囚人によって建設された町で、道路も広く、四季を通じて美しく自然が豊かである、と市の紹介記事に説明と写真が掲載されているが、町全体が整然としており、建物も計画的に建設された近代的都市という感じのする町である。

平成17年に、市の近くの、第32収容所第8、第9支所があったスホヴスカヤの墓地に埋葬されている、32名の埋葬地調査を計画し、目的地向かったところ、市のロシア人墓地から東方約500mの場所に、市の対外経済関係主任専門官スクリナ女史が、両手に花束を抱えて我々を待っていて、ロシア人墓地入口に案内してくれたが、その時、ロシア人墓地の入口前に円形の高さ50cm径100cmほどの黒花崗岩製の日本人犠牲者追悼碑が建立されてあった。スクリナ女史の話によると、日本人抑留者の埋葬地が水没したので、アンガルスク市としてこの地に慰霊碑を建立

したが、この場所でのよろしいかということ、日本側でもこの場所に並べて慰霊碑を建立しても結構ですとのことであったので、市が慰霊碑を建立して頂いたことに有り難く感謝の意を伝えるところ、両手に持った花束を供えてくれと渡され、有り難く受け取って慰霊碑に供え慰霊を行った経緯があったので、今年再び我々が墓参に来たことを女史に伝えるべく市役所を訪問したのである。ところが、女史は日本に出張中ということで、渉外担当のデミドヴァリアさんと面談し、墓参に来たことを伝え、持参した記念写真と土産物を渡し、スクリナ女史が帰国されたら、よろしく伝えてほしいとお願いした。



市が建立した
日本人犠牲者追悼碑

聞くとところによると、アンガルスク市と石川県小松市とは姉妹都市関係にあり、スクリナ女史も小松市に行ったものと思われるので、帰国後小松市に慰霊碑の写真を送り、建立の経緯を説

明して、慰霊に協力してもらうべく連絡を取り、更なる交流と友好を願いたいと考えている。

⑤バム鉄道沿線埋葬地と慰霊碑墓参

平成16年、17年に続いてこの地区は3回目の墓参である。藤井・茨木チームが「民間建立慰霊碑調査」のため初めて訪れた最初の1年は、全国強制抑留協会実施の、1992〜3年代墓参記録、戦友会誌の記録等を頼りにして調査を実施し、墓参をしたが、タイシェット第一副地区長・キリチェンコ氏の案内による主たる埋葬地慰霊碑調査で日程が一杯となり、特に55km地点ネーヴェルスカヤ・クヴィトク周辺の埋葬地の多さ、トポローク病院墓地に至る道路の悪さ、山中に病院墓地のある理由、慰霊碑が建っているのは病院墓地のみである、他の地区のように埋葬地と収容所との関係がはっきりしていない等疑問点が多く、帰国後全国強制抑留協会墓参団の数人に電話を掛け、福田恭二様、片山清次郎様の紹介を受けて交流を始め、お二人より手紙と共に試掘写真等の提供、クズネツォフ著イルクーツク州の日本人墓地(1993年版)の紹介・購入等の協力を受けて、平成17年に藤井・茨木チームとして調査スケジュールを提出し、スケジュールが

厚生労働省より州政府に通達され、14日間休日無しで、州及び各自治体も休日返上で協力してくれた。しかし、残念ながら176km地点チュナから300kmのブラーツク市に至る間は道路事情が悪くて車での走行ができず、鉄道利用のほかに、日程上不可能であったが、可能な限り埋葬地を調査した結果、主たる埋葬地はほとんど把握でき、慰霊碑調査も木碑を含めてほとんどの調査ができたので、今回その調査結果を「イルクーツク州・慰霊碑写真集」として州政府に提出した次第である。

今回の墓参で、この地に抑留され、その後、各地の遺骨収集に参加して慰霊を重ねておられる田口庄治氏と同行して、陸士59期生(航空)の抑留地、抑留状況、死没者と遺骨収集状況等の新しい発見もでき、それらの貴重な記録も入手することができたが、紙面の都合上その一部についての記載のみに止める。

☆バム鉄道沿線(タイシェット地区第7収容所) 死没者と集骨について

この地区の死亡者数は、資料によりまぢまぢで、正確な数は不明である。千名単位の作業大隊が、鉄道敷設労働に従事し、作業が進むにつれて移動し、怪我人や病人は大隊を離れて病院に入院し、退院しても殆ど原隊には戻らず

に移動したり、労働内容により小単位の転属があつて、最初の大隊がばらばらになり、死亡した場合の死没者の管理を難しくしている。中隊長が死没者の姓名を記録しておいても没収される状態で、当時それを把握していたのは収容所長のみであるから、正確でなくなっているのは当然であろう。

☆村山常雄氏調査によるタイシエツト地区死没者

昨年、シベリア死没者名を漢字で編集した村山常雄氏の「シベリアに逝きし人々」によれば、イルクーツク州死没者は5369名で、バム鉄道沿線タイシエツト地区での死没者は3057名で、州全体の57%を占めている。如何に過酷な労働を強いられたかが分かる。遺骨収集についての現状からの調査結果は、厚生労働省が沿線埋葬地を情報に基づき、40箇所を調査試掘を行ったが、遺骨収集ができたのは、12箇所を過ぎず、収骨総数は1839柱で、死没者数(村山氏調査)の6割に当たるが、殆どが病院墓地からの収骨数であり、残りの28箇所は収骨不能の状況である。タイシエツトとブラーツク間は約300kmあるが、110km地点のカメンスクまでが遺骨収集のできた場所、この地点からブラーツク間で、厚生労働省が試掘調査した場所の22箇所が収集不能の結論になっている。

病院墓地も試掘箇所の一つに入っており、遺骨収集を実施した結果、外人の遺体ばかりで、日本人が身につけていた物と推定できる物も出ず、埋め戻した例もある。140km地点のチュナ市から奥地は、夏期には吸血森林ダニの大量発生等があつて調査に行けない状態、遺骨収集は絶望の状況である。前述のように、豪雨・洪水による道路事情が悪く、墓参も実施できない現実は何ともしがたく、また、この現実を知る人も無くなりつつあるのが現状である。

所が収集不能の結論になっている。病院墓地も試掘箇所の一つに入っており、遺骨収集を実施した結果、外人の遺体ばかりで、日本人が身につけていた物と推定できる物も出ず、埋め戻した例もある。140km地点のチュナ市から奥地は、夏期には吸血森林ダニの大量発生等があつて調査に行けない状態、遺骨収集は絶望の状況である。前述のように、豪雨・洪水による道路事情が悪く、墓参も実施できない現実は何ともしがたく、また、この現実を知る人も無くなりつつあるのが現状である。

☆タイシエツト作業大隊の編成、投入経緯等について

前記田口氏記述の戦友会誌・別冊記録記述の抑留経緯により、タイシエツト抑留者は、ソ連国境侵攻と勇戦敢闘した部隊の将兵が殆どで、一説によると、ソ連軍は満洲に侵攻した際、関東軍の中で直接交戦した部隊を、最悪の環境のこの地区に送り込み、最も厳しいバム鉄道建設労働に従事させたという事で、寧安、海林、牡丹江、敦化、温春、石頭、蘭崗、掖化等国境駐屯部隊が多かったということである。これらの部隊は、満洲防衛の最前線にあつて、峭壺を掘り、少ない武器で徹底抗戦した。その生き残りの将兵が、

最悪の環境のこの地区に送り込まれて厳しい重労働を強制され、多くの死没者を出す結果となった。この事は真実であると思う。シベリア抑留の過酷で非道な真実を語り継ぎ、死没者への慰霊を続けなければ、その霊は浮かばれない。ソ連時代ならば、当然の報復手段として考えられることである。それが事実であれば事実として、関係者も積極的に、歴史の事実として公表し、犠牲者の霊を弔うべきであろう。そのことに関しては、後日まとめて報告することにしたい。

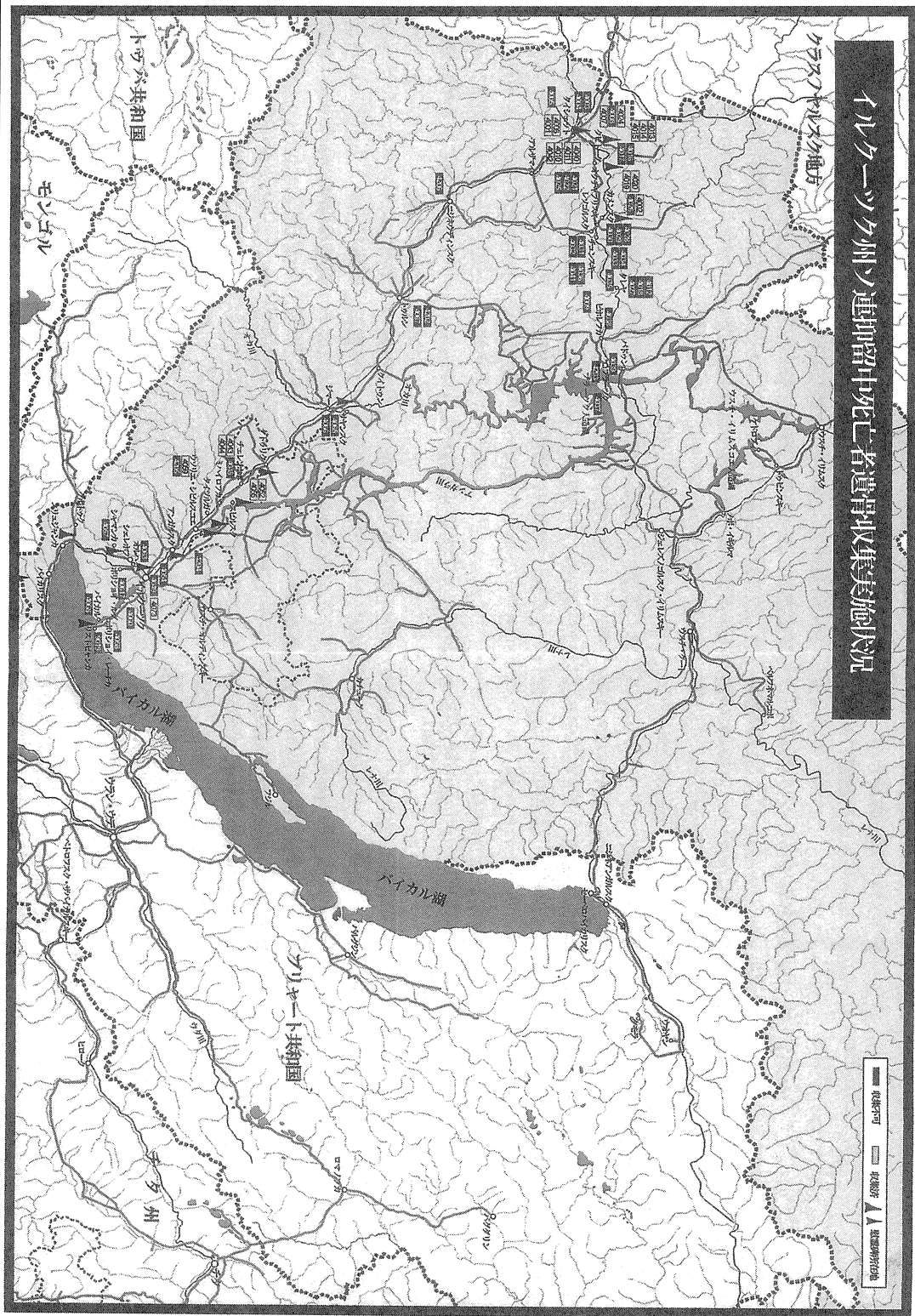
◆本年度の活動について

シベリア鎮魂慰霊は、当然ながら次世代に伝える事業として、解散した戦友会に呼び掛け、11月3日に各戦友会合同のシベリア鎮魂慰霊祭を、各戦友会の御遺族にも拡大して慰霊の輪を広げるべく、そのための広報活動を考へて実行に移して行きたい。

次世代への継承のため、JYMAとの関係で、相互理解を更に深め、抑留体験者との体験の話を通して、教えられていないシベリア強制抑留の歴史的真実を学んでもらい、遺児の会の皆さんと共に慰霊の継承を推進してもらいたい。その支援を我々が当然やらねばならないと思っている。

チタ州については、チタ平和慰霊祈念碑公苑の管理合意ができたことについて、法律大学側の理解と決断を高く評価して、関係者並びに戦友会として感謝の意を伝えるべく、何らかの形でその意を学校側に示したい。チタ州、イルクーツク州の、現在建立されている慰霊碑について、鉄柵が無く、近くにロシア人墓地が進出している慰霊碑があるので、全国強制抑留協会若しくは(財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会に、鉄柵の費用負担が可能かどうか、慰霊碑の写真を示してお願いしてみたい。

イルクーツク州の慰霊碑については、州政府に写真集を提出した経緯と事実を基に、姉妹都市関係先についても、慰霊碑の保全管理と、日口間の友好の更なる推進を含めて、日本人慰霊碑への墓参をお願いすべく、石川県ロシア協会を訪問し、州政府に提出した写真集を渡して説明し、慰霊碑の保全管理についても意向を伺ってみたいと思っております。どこまで出来るか、年齢的にも分かりませんが、本年度の活動について、祈りを込めて、意気込みを示しましたが、よろしく御支援の程お願いいたします。



厚生労働省作成

協議会参加団体の紹介

⑨全ビルマ会

一 会の概要・目的

全ビルマ会は、昭和39年に、東日本の戦友会を会員として設立された「ビルマ英霊顕彰会」と、昭和48年に、全国の地域別戦友団体連合会を会員として発足した「全ビルマ戦友団体連絡協議会」の事業を継承するため、平成16年5月30日に設立された。会長には、三澤鍊一氏を選出したが、昨秋より体調を崩され、入院中なので、平成20年6月1日に菅野廉一氏が就任した。会員は、全国的で、個人を対象とし、ビルマ方面の戦没者の慰霊顕彰を目的としている。

二 会の沿革

1 ビルマ英霊顕彰会

昭和31年、厚生省がビルマの遺骨収集を企画したのに対応して、協力者の人選、壮行会の開催、慰霊祭の実施等を行うために、同年1月3日、ビルマ方面軍元高級参謀片倉 哀氏を理事長として「ビルマ親善協会」が設立されたのが発端である。この時の遺骨収集の成果は、ビルマから千三百二十一柱、インドから三十柱が奉還された。そこで、昭和34年に靖國神社で慰霊祭を行

い、約300名が集まった。

当時、ビルマとの友好親善を目的とした民間団体で「日本ビルマ協会」があり、昭和36年7月、会名を「ビルマ僚友会」と改名し、会長には元ビルマ方面軍司令官河邊正三氏を選出した。

戦後、ビルマ政府は、民間人の入国を一切拒否していたが、昭和37年に徳島ビルマ会が建立したバゴダに、ビルマ首相ウ・ヌー氏より佛舍利が寄贈され、その御礼言上を理由に、「ビルマ僚友会」の理事2名がビルマを訪ね、慰霊碑崩壊の実情や遺骨散乱の様態を、帰朝報告したことから、遺骨収集団、募参団派遣の声が起こり、そのためには、戦友会の大同団結が必要として、「ビルマ僚友会」とは別に「ビルマ戦没者慰霊顕彰会」が、昭和39年5月21日に設立された。しかし、この二つの団体は、同じ目的で設立されており、厚生省及び駐緬日本大使高瀬氏などからの強い要請もあつて、同年7月2日、大同団結して「ビルマ英霊顕彰会」として一本化され、会長に「ビルマ僚友会」の事務局長で、元第十五軍参謀橋本洋氏が就任した。

2 全ビルマ戦友団体連絡協議会

戦後20年を経過した昭和40年代に入ると、厚生省は、戦地の遺骨収集を打ち切る考えがあることを示したので、日本遺族会を始め全国の戦友会がこれ

に反発して、厚生省に対し、陳情、請願が続出してきた。特に、昭和47年、グアム島からの、元日本兵横井庄一氏の帰国がこれに拍車をかけ、気運が盛り上がった。特にビルマに関しては、全国からの激励、陳情が相次ぎ、遂に厚生省から「ビルマ英霊顕彰会」に対して、全国的な戦友会の大同団結と陳情の一本化が要請された。

しかし、関西地区の戦友会は、東京地区と一本化することに強い抵抗があり、難航したが、戦友会連合会の連絡機関ならばということと、昭和48年7月21日、「全ビルマ戦友団体連絡協議会」として一本化され、会長に飛鳥齋氏が選出された。203戦友会が加入し、会員数は15万人と称した。

三 活動状況

1 遺骨収集に協力

全ビルマ戦友団体連絡協議会は、厚生省に遺骨収集の再開を要望し、その計画が発表されるや、自己負担金六千万円の目標を作つて募金を始め、遂に九千万円の募金を達成した。

昭和50年からの遺骨収集団派遣に際しては、ビルマ、インド、タイにおける8回の派遣に、延べ477名の会員を派遣し、合計三万五六一九柱の御遺骨を奉還した。

これらの記録は、昭和55年に「勇士

はここに眠れるか」と題して、600頁の報告書を刊行した。

2 ヤンゴン新日本人墓地整備募金

ビルマの首都ヤンゴンの都市計画で、都心にあつた日本人墓地を、北オカラッパへ移転するに当たり、戦没者霊苑の整備がどうなるかが問題であり、厚生省の建立した平和記念碑の移転は、ビルマ側の負担と決められているが、その周辺の霊苑整備資金を募集したところ、当初5万ドルを目標としていたが、最終的には三千万円余に達し、当初目標の5倍の金額となり、16万ドルを日本人会に送金し、十三層塔、春日灯笼、由来碑等を追贈した。

3 ビルマ方面戦没者慰霊祭

昭和34年に、ビルマ親善協会が靖國神社で行つた慰霊祭を第1回として、その後、毎年11月初旬(第1日曜日)に斎行されてきて、平成19年11月3日の慰霊祭は、第49回目を数えた。

参加者は、当初300名から順次増加し、靖國會館では収容できなくなり、境内の遊就館前広場、参道、駐車場、相撲場等を借りて、大天幕を張り、椅子、机を持ち込んで、式典後のビルマを偲ぶ会を行つてきたが、天幕等の借用料が高額となつたので、平成元年からは九段会館で行うこととなり、平成11年まで続いたが、会員の老齢化によつ

て参加人員が減少し、再び靖国会館で各戦友会ごとに懇談して、流れ解散とする形となった。

4 戦跡慰霊巡拝団の派遣

昭和45年1月11日、戦後初めて、ビルマ政府が一般民間人の入国を許可したので、ビルマ英霊顕彰会は、第1回の巡拝団35名を派遣し、47年、48年と続けたが、その後は各戦友会単位で巡拝団を編成する所が増えたので、派遣を中止した。昭和60年からは、戦友会単位では応募者が少なくなつて中止する所が多くなつたので、再びビルマ英霊顕彰会として派遣することとして、昭和61年、第1回として25名が応募した。爾来、現在まで例年の事業となつたが、昭和64年と平成19年度は、ビルマの政情不安から派遣を中止したため、平成19年2月をもって21回派遣したことになった。インドへの巡拝団は、インパール作戦に参加した部隊の戦友会が行っていたが、平成6年3月16日には、全ビルマ戦友団体連絡協議会主催で、甲谷秀太郎会長を団長とする161名が、厚生省がインパールに建立した日印合同慰霊碑の竣工記念式典を行うために参加した。

5 英国軍人との和解・親善

昭和58年、ロンドンの日本大使館に元英国軍人から「ビルマで戦つた日本軍人と話し合いたい」との申し入れが

あり、丸紅のロンドン駐在員であつた平久保正男氏に相談があつた。平久保氏は、インパール作戦でコヒマへ進攻した第三十一師団(烈部隊)の主計将校であるが、有給休暇を取つて、二人の元英国軍人を日本各地へ案内して、各地の戦友会で歓迎を受けて帰国し、コヒマで戦つた英国第二師団の人達に報告したので、日本から訪英団を派遣して欲しいとの誘いが、烈部隊の戦友会に届き、昭和59年6月、有志12名が訪英して、英国各地で歓迎された。更に、訪英の誘いがあつたが、烈部隊だけでは受けられないので、ビルマ英霊顕彰会から有志12名が平成元年6月に訪英した。

この時、グレートブリテン笹川財団から、資金援助の内諾を得て、英国側に招待したい旨申し入れたところ、快諾を得たので、平成元年11月に元英国軍人11名を招待し、九段会館で千名の会員が歓迎し、靖國神社や千鳥ヶ淵戦没者墓苑に案内し、広島、長崎の原爆跡も見て、各地の戦友会が歓迎した。その後、第五次まで延べ71名の英国軍人を招待した。彼等は帰国後ビルマ作戦同志会(BCFG)を作り、日本の全ビルマ戦友団体連絡協議会との友好親善団体として、今後の活動を打ち合わせたが、先ず戦場で合同慰霊祭を行うこととビルマ戦史、記録を互いに交

換することを約束し、実行に移した。

平成9年2月、日本側から吉野団長以下16名、英国側からメイリンズ団長以下7名がビルマのヤンゴンで合流し、日本人墓地の平和記念碑では白菊を、タウチャンの英軍墓地ではポピーの花輪をそれぞれの団長が献花した。

日英両国大使合同のレセプションが英国大使館で行われて招待された。

平成10年3月2日、英国在郷軍人会会長ダウニング氏等13名が、同日18日ケンブリッジ支部からの5名が来日し、郷友連との正式会談以外の接待は、全ビルマ戦友団体連絡協議会が外務省の依頼で担当した。

平成10年5月には、英国側7名、日本側5名が、ビルマ及びタイ国で合同慰霊祭を行い、共に両国大使が参列され、ビルマでは日本大使が、タイ国では英国大使が、それぞれ食事に招待された。更に、最後の晩は、日英両国駐在武官共催の夕食会が行われた。

平成11年3月26日には、極東和解第二次合同慰霊祭として、英国側7名、日本側3名が参加して、タイ国で合流し、チュンカイ連合軍墓地で和解の拝礼と式典を行った。

平成13年3月には、第15次インド・ミャンマー慰霊巡拝団に、英国のBCFGの5名と平久保正男氏が合流し、

コヒマに入り、英軍墓地で合同慰霊祭を行い、カンリツク協会で和解のミサを行い、インパールに入り、英軍墓地で両国代表が花輪を捧げ、ロトパチンの日本の厚生省が建立した慰霊碑の前で、両国代表が花輪を献花した後、平山良映導師により仏式慰霊祭を行った。なお、平成11年7月8日付けで、高村外務大臣より全ビルマ戦友団体連絡協議会に対して「日本とイギリスとの相互理解の促進に尽力した」との表彰状が授与された。

平成15年10月14日、ロンドンのセント・ブルガ協会の壁に「和解と友情の記念碑」が嵌め込まれた。「昨日の敵は今日の友」とし、BCFGと全ビルマ戦連協の名が入つて「永遠の和解を記念して、2003年設置」となっている。

6 ビルマの友を励ます会

毎年6月の日曜日に、ビルマからの留学生で、今泉記念奨学会の奨学金を受けた学生が作っている学友会の会員を招いて昼食会を開催している。昨年までで17回になる。

7 インド・ビルマの友謝恩歓迎会
栃木県那須のアジア学院に農業の研修を受けに来ている留学生で、ビルマとインドのマニプール州、ナガランド州からの者を招いて歓迎会を行つており、昨年までで28回となっている。



表題は、当協議会の参加団体である

「特定非営利活動法人ジェイワイエム
エイ」(英文表記「Japan Youth Memorial Association」) 略称「JYM A」
(旧日本青年遺骨収集団) の機関紙
(月刊) の題字であるが、その第97号
(平成20年4月1日発行) によれば、
同法人の平成19年度における遺骨収集
事業は、次の一覧表のとおり実施され、
8地域に十次にわたって延べ39名の青
年・学生を送り出し、508柱の御遺
骨を祖国に奉還することができた(沖
縄については、現地に納骨)。

収集された御遺骨は、千鳥ヶ淵戦没
者墓苑において行われる御遺骨引渡式
において、厚生労働省に引き渡され、
同省での身元調査が行われて御遺族が
判明すれば、御遺族の元にお渡しし、
氏名不明の御遺骨は、毎年5月に行わ

事務局からの報告

○新事務所の発足

先に予告申し上げたとおり、当協議

れる拜礼式において、千鳥ヶ淵戦没者
墓苑に納骨される。

今年(平成20年)は、去る5月26日(月)千鳥ヶ
淵戦没者墓苑において、別掲のとおり、
厚生労働省主催の平成20年度千鳥ヶ淵
戦没者墓苑拜礼式が挙行された。

なお、同法人では、去る3月15日、
九段会館において、平成19年度の活動
報告会を開催し、遺骨収集活動に当たっ
た現役学生により、写真・スライドを
用いた活動報告が地域別に行われ、そ
れぞれ自身の体験を通して感じたこと
を率直に語り、懸命に訴えた。当日は、
OB・OG、理事、顧問、関係諸団体
からの参加者も多く、先輩からコメン
トや現役当時の思い出などを語って
もらい、今後の活動にとっても非常に有
意義な報告会となった。

平成19年度遺骨収集事業完了!! 本年度508柱の御遺骨を奉還す!

次派遣	派遣地域	派遣隊員	収集柱数	日数
237	硫黄島 6月27日～7月9日	石垣 拓真 (拓殖大学4年) 新家 智成 (社会人)	受領のみ	13
238	モンゴル(ノモンハン) 8月20日～9月4日	渡部 寛子 (拓殖大学3年) 光山 由起 (国士館大学2年)	26柱	16
239	沿海州 9月19日～10月5日	安齊 慶 (国士館大学3年) 景山 智久 (国士館大学2年) 宇都宮 大起 (拓殖大学1年)	93柱	17
240	硫黄島 9月27日～10月11日	橋本 真澄 (国士館大学4年) 豊川 正和 (国士館大学1年)	受領のみ	15
241	ガダルカナル 9月29日～10月11日	高橋 亜希奈 (成城大学4年) 村山 かおり (国士館大学4年)	78柱	13
242	東部ニューギニア 10月27日～11月9日	石垣 拓真 (拓殖大学4年) 遠藤 拓弥 (拓殖大学2年) 工藤 幸子 (国士館大学4年) 並木 絵美 (二松学舎大学4年)	94柱	14
243	硫黄島 11月25日～12月6日	石垣 拓真 (拓殖大学4年) 百枝 篤志 (社会人)	受領のみ	12
244	フィリピン 1月23日～2月6日	石垣 拓真 (拓殖大学4年) 楠林 豪 (社会人)	152柱	15
245	沖縄 2月6日～2月13日	安齊 慶 (国士館大学3年) 村山 かおり (国士館大学4年) 津嘉山 朝彦 (横浜国立大学3年) 高橋 雅樹 (国士館大学3年) 景山 智久 (国士館大学2年) 金苗 正史 (拓殖大学2年) 光山 由起 (国士館大学2年) 藁谷 陽一 (国士館大学2年) 児玉 純一 (国士館大学2年) 高岡 早希子 (国士館大学2年) 森啓 太 (拓殖大学2年) 野崎 史弥 (拓殖大学1年) 山澤 健太 (日本大学1年) 佐久間 愛生 (日本大学1年) 田中 麻美 (東京家政大学1年) 佐々木 優子 (社会人)	22柱	8
246	硫黄島 2月13日～2月29日	豊川 正和 (国士館大学1年) 百枝 篤志 (社会人) 新家 智成 (社会人) 安齊 慶 (国士館大学3年)	延べ43柱	17
計	10次派遣	延べ39人(学年は参加時)	508柱	144

会は事務所を移転し、4月7日以降、
新たな体制で新事務所を発足した。
新事務所は、(財) 特攻隊戦没者慰
霊平和祈念協会、(財) 太平洋戦争戦
没者慰霊協会及び当協議会の三団体会
合
同事務所である。
慰霊三団体が事務所を一つにするこ
とは、それなりに利点も欠点もある。
今後、関係の皆様から励ましをいただ
くことも、逆にお叱りをいただくこと
も多いと思う。ともあれ、私ども一同
これを前向きに捉えて、三団体力を合
わせて、慰霊事業の永続と拡充のため
に努力してまいりたい。
新事務所の概要は、左記のとおりで

ある。

記

〒105-0014

東京都港区芝二丁目五一一九

T Aビル 四階

(交通) 地下鉄都営三田線

芝公園駅から徒歩三分

電話 03-5730-0421

FAX 03-5730-0422

○理事会・評議員会の開催

平成20年5月8日及び9日、当協議会の平成20年度第1回評議員会及び同理事会をそれぞれ開催した。両会議は、瀬島前会長逝去の後、暫時空席であった当協議会会長に山本卓眞氏を選出する案件など重要案件が目白押しであったが、両会議共、事務局からの提議について熱心な討議が交わされた結果、それぞれ原案どおり承認された。

◇評議員会

(開催月日)

平成20年5月8日(木)

(開催場所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑会議室

(出席者)

評議員14名全員(委任状出席4名を含む)、他に堀江正夫会長代行、竹之下和雄監事、柚木文夫理事長(事務局)(議長)

野口清秀評議員

(主要審議事項)

① 理事の退任と新理事の選任ほか役員等人事案件

特に、新理事として山本卓眞、夏川和也、馬野猛彦の三氏が選任され、加えて新会長候補に山本卓眞氏が全会一致で推薦された。

② 平成19年度事業報告

③ 平成19年度決算報告

④ 平成20年度事業計画

⑤ 平成20年度予算計画

◇理事会

(開催月日)

平成20年5月9日(金)

(開催場所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑会議室

(出席者)

理事13名(欠席理事1名)、他に堀江正夫会長代行、竹之下和雄監事(議長)

(議長)

冒頭の特別議案は堀江正夫会長代行、以後は山本卓眞新会長(主要審議事項)

① 特別議案(会長選出)

昨日の評議員会の結果に基づく新理事が紹介され、同評議員会の推薦による会長候補山本卓眞氏が、全会一致で会長に選出された。

その後、堀江会長代行の退任の挨拶、

山本新会長の就任の挨拶に引き続き、山本新会長が議長となって予定の議案が審議された。

② 評議員の交替ほか役員等人事案件

③ 平成19年度事業報告

④ 平成19年度決算報告

特に、平成19年度決算から懸案の新会計基準に移行したことで、前年と異なる会計整理の方式が事務局から説明され、承認された。

⑤ 平成20年度事業計画

特に、前年度から新たに事業化された遺骨収集等派遣協力について関心が集まり、当協議会が手掛ける慰霊事業の新たな展開の試金石として承認された。

⑥ 平成20年度予算計画

◇【新会長山本卓眞氏略歴】

昭和20年3月陸航士卒(58期)

同 20年7月陸軍少尉任官

同 24年3月東大工学部電気工学科卒

同 24年4月現富士通株式会社入社

同 51年3月同社常務取締役

同 56年6月同社代表取締役社長

平成2年6月同社代表取締役会長

同 9年6月以降同社名誉会長

同 9年11月勲一等瑞宝章受賞

(現在の主な役職)

日本会議副会長

(財) 国策研究会会長

(財) 偕行社会会長

(財) 特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会会長

(財) 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会会長

○参加団体連絡調整会議の開催

当協議会では、首都圏所在の正会員団体による連絡調整会議を年2回予定しているが、その本年度第1回の連絡調整会議を、平成20年5月14日(水)に開催した。

会議には、就任直後の当協議会山本会長も出席して挨拶を述べると共に、各団体の現況や悩み、当協議会への要望等に熱心に耳を傾けた。

(開催場所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑会議室

(会議出席団体)

海原会

神奈川県偕行会

興亜観音を守る会

全国甲飛会

太平洋戦争戦没者慰霊協会

東京ヤゴダ会

特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会

予科練雄飛会

陸士第五十七期同期生会

J Y M A

暑中お見舞い 申し上げます

財団法人 水交會
 会長 林崎千明
 副会長 福地健夫
 同 杉本光
 同 夏川和也
 同 兼理事 藤田幸生
 専務理事 池田正男
 事務局長

財団法人 偕行社
 会長 山本卓眞
 副会長 斎須重一
 同 塩田重章
 理事 福田一彌
 理事 菊地勝夫
 事務局長

航空自衛隊退職者団体
 新生つばさ會
 会長 杉山蕃
 副会長 村木鴻二
 同 後藤龍一
 同 八藤剛輔
 同 津曲義弘
 同 杉山弘

(主要協議事項)

- ① 本年度の「大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭」の実施について
 本年度の合同慰霊祭実施要領について、当協議会が準備中の計画の概案を説明し、各団体の意見・要望を求めた。特に、各団体会員への案内と賛助会員への案内とのすり合わせ、参加を申し出ていながら当日不参加人数の極限化策など、活発な意見交換が行われた。
- ② 当協議会の理事会・評議員会の結果について
 平成20年5月8日及び9日に、それぞれ開催された当協議会の評議員会及び理事会の審議内容、特に、本年度の事業計画と新役員等の人事について、当協議会から説明し、今後の協力をお願いした。
- ③ 各団体からの意見等
 各団体の現況と今後の慰霊事業の在り方について意見を交換した。

特に、会員の高齢化と会員数の減少傾向の状況と新しい世代へ幅広く慰霊意識を訴えてゆく努力、同様に、海外にある慰霊碑の現況と今後の維持管理についての協議会への期待など、切実な意見が述べられ、多くの課題について、今後引き続き検討することを約した。

平成20年度大東亜戦争 全戦没者合同慰霊祭の お知らせ

当協議会は、参加諸団体と共に、本年度の「大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭」を、来る7月5日(土) 12時から靖國神社において催行いたします。
 ご案内状は既に、会員の皆様のお手元に届いていると思いますが、その他のご参拝ご希望の方は、電話又はFAXでご連絡下さい。

直会参加料 (参加者のみ)
 五〇〇〇円

財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会 新年度役員等一覽 (5月10日現在)

(あいうえお順)

名譽総裁	三笠宮崇仁親王殿下
会長	山本卓眞
副会長	岩下邦雄
理事長	柚木文夫 (常勤)
理事	秋山眞一
	小田原健児
	夏川和也
	益田善雄
	植田弘
	赤木衛
	新井剛
	菊地勝夫
	栗原宏
	奈良保男
	備後嘉雄
	松島トモ子
	板垣正
	下山敏郎
	羽佐間重彰
監事	植田弘
	新井光雄
	池田正男
	倉谷三男四郎
	富田定幸
	野口清秀
	藤原博
	森田次夫
	大久保隆
	新庄鷹義
	堀江正夫
評議員	新井光雄
	池田正男
	倉谷三男四郎
	富田定幸
	野口清秀
	藤原博
	森田次夫
	大久保隆
	新庄鷹義
	堀江正夫
顧問	大久保隆
	新庄鷹義
	堀江正夫
相談役	堀江正夫
	堀江正夫
	堀江正夫

財団法人 大東亜戦争全戦没者
 慰霊団体協議会
 名譽総裁 三笠宮崇仁親王殿下
 会長 山本卓眞
 副会長 岩下邦雄
 同 斎須重一
 理事長 柚木文夫
 電話 03-5730-0421
 FAX 03-5730-0422
 (参考) 参加費用 二〇〇〇円
 玉串料

(財) 水交会会長
新生つばさ会会長
参与 住友 勝一 寺島 芳彦
横溝 潔

(財) 特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会
(会) 長 山本 卓真
特攻殉国の碑保存会
(会) 長 益田 善雄
豊橋歩兵第十八聯隊戦友会
(代表) 伊奈作一郎
歩兵第二二五聯隊戦友会
(会) 長 中山 政孝
山口県偕行会
予科練雄飛会 (会) 長 住友 勝一
陸士第五十七期同期生会

財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会正会員団体一覧 (5月10日現在)

(あいうえお順)

(財) 海原会 (副会長 永瀬 嘉三)
英霊にこたえる会

神奈川県偕行会 (会) 長 堀江 正夫

興亜観音を守る会 (会) 長 森 善治

(NPO法人) JYMA (理事長 赤木 衛)

震洋会 (会) 長 上田恵之助

全国甲飛会 (会) 長 前田 武

全ビルマ会 (会) 長 三澤 鍊一

(財) 太平洋戦争戦没者慰霊協会 (理事長 岸田 敏夫)

東京ヤゴタ会 (会) 長 藤井弥五郎
東京都郷友会 (会) 長 矢部 廣武

新入会員及び寄付者

(3月5日～5月31日)

【正会員】

東京都郷友会

【賛助会員】 (あいうえお順)

秋山 玄雄 朱谷 真人

小島 陽三 細居 俊司

三宅 升信

【賛助特別会員】

小田原 健児

【寄付者】

(あいうえお順)

安藤 哲 鈴木 昭雄
中山 政孝 森本 茂 記

大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会

ご入会のご案内

当協議会の趣旨にご理解を賜り、戦没者慰霊事業の永続のため、多くの方々のご入会をお待ちしております。

当協議会設立の趣旨

過ぐる大東亜戦争においては、多くの方々が戦いに身を投じ、国を思ふ民族の幸せを希いつつ、戦火に斃られました。その数三百万余人に及んでおります。今日、私どもが享受する平和と繁栄は、これら戦没者の尊い犠牲の上に築かれたものであります。

しかしながら、戦後六十余年の歳月が経過し、これら戦没者に対する慰霊の心が風化しつつあることが懸念されます。また、これまで戦没者慰霊の火を燃やし続けてこられた慰霊諸団体の多くが、会員の高齢化により、その活動の継続が危ぶまれております。

ここにおいて、それら慰霊諸団体の活動を継承し、慰霊事業を永続させ、次代に広めてゆくために、私どもは慰霊諸団体と相語り、「大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会」を設立したものであります。

私どもは、慰霊諸団体と相携えて、戦没者慰霊顕彰事業の永続拡充に全力を尽くします。

当協議会の会員の区分と年会費は、次のとおりです。

- 一 賛助会員 (本会の趣旨に賛同する個人)
年会費 三、〇〇〇円
- 二 賛助特別会員 (特別ご芳志の賛助会員)
年会費 五〇、〇〇〇円
- 三 正会員 (本会の趣旨に賛同する慰霊目的の法人)
年会費 一〇、〇〇〇円
- 四 特別会員 (本会の趣旨に賛同する法人・団体)
年会費 五〇、〇〇〇円

皆様のご理解とご協力を、心からお願ひ申し上げます。